ゆかりの米学者 功績をたどる

あさぎり町でシンポ

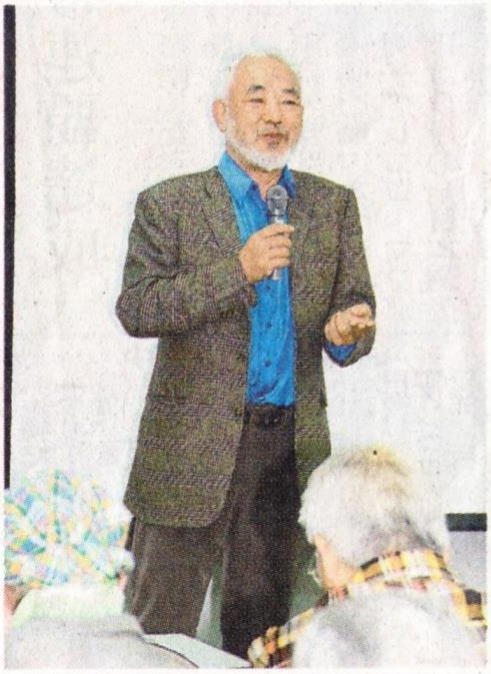
あさぎり町の旧須恵村で約80年前、住民の暮らしぶりを調査した米国の人類学者ジョン・エンブリー博士の功績をたどるシンポジウムが17日、同町であり、日韓の研究者が見解を述べた。地元住民ら約50人が聴いた。

エンブリー博士は妻エラさんら家族と1935年から1年間、須恵村に滞在。39年に出版した「日本の村　須恵村」は、コミュニティー研究の世界的名著とされる。

シンポジウムは、エンブリー博士の研究を続ける、いずれも琉球大法文学部の神谷智昭准教授と武井弘一准教授（人吉市出身）らが企画。全京秀（チョンギョンス）ソウル大名誉教授＝文化人類学＝は、基調講演で「エンブリー博士が当時撮影した1600枚余りの写真は、30年代の日本の農村生活そのまま。詳しく研究すれば当時を深く理解するための資料になる」と指摘した。

両准教授らを交えたパネルディスカッションもあった。

（内海正樹）



ジョン・エンブリー博士の実績などについて語る全京秀ソウル大名誉教授＝あさぎり町

『熊本日日新聞』2016年12月22日付